

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01399

研究課題名（和文）紛争後社会のレジリエンス：オセアニア少数民族の社会関係資本と移民ネットワーク分析

研究課題名（英文）Resilience of post-conflict societies: Analysis of social capital and migrant networks of minorities in Oceania

研究代表者

丹羽 典生 (Niwa, Norio)

国立民族学博物館・グローバル現象研究部・教授

研究者番号：60510146

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、紛争後社会のレジリエンスをオセアニアの少数民族の事例から分析した。先住民との婚姻による結びつきなどの社会関係資本、グローバルなネットワークの拡大に伴い存在感を増大させる移民コミュニティ、そしてそれらに影響されて刻々と変化するエスニック・アイデンティティなどが比較分析された。レジリエンスに関わる人文社会科学の文献調査に加えて、在フィジーの少数民族、かれらの宗主国、再移住先のオセアニア大国がフィールド調査の地として選定された。その結果、フィジーの先住民の文化への習熟の度合い、日常の関係性の親密さの度合いによって、紛争後の関係修復の戦略に違いが見られることを示唆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

紛争後の社会において、いかに争いの当事者が和解できるか。あるいは過去の遺恨を再燃させることなく、関係の維持を図るのかというのは国家間や民族間の対立では基本的な問題点である。本研究では、移民/先住民、グローバル化/土着化という相対立する幅の中で、具体的な人々の行動というミクロな分析からどのようにレジリエンスを試みているかを解き明かした。グローバル化されたヒトの移動は、難民・移民問題、それと相関して生じる排外主義的な動きなど多くの現代的課題を生み出しているが、本研究成果であるオセアニアの少数民族の事例分析を敷衍することで、示唆的な多文化共生への経験的な分析を行うことができる。

研究成果の概要（英文）：This study analyzed the resilience of post-conflict societies in the case of ethnic minorities in Oceania. It comparatively analyzed interethnic relations through indigenous-migrant intermarriage, the growing presence of immigrants in the context of expanding global networks, and the changing ethnic identities influenced by these relations. In addition to a review of the literature in the humanities and social sciences on resilience, Fiji was selected as the primary case study site, with ethnic minorities in Fiji, their home countries, and the major Oceania countries to which they have re-migrated as field research sites. Findings suggest that there are differences in strategies for repairing post-conflict relationships depending on the degree of proficiency in indigenous Fijian culture and the degree of intimacy of everyday relationships.

研究分野：社会人類学

キーワード：レジリエンス 少数民族 オセアニア

## 1. 研究開始当初の背景

1980年代以降、グローバル化の影響もあり民族対立などの非国家を主体とする紛争が世界的に現出する状況にあったという認識から研究プロジェクトを開始した。特に本研究で中心的な調査地域として選択したオセアニアの島嶼部では、2000年代以降の政治不安が増大したものの、それ以降から近年にいたるまで社会関係の修復を図る局面に入ったとされることが多い。本研究では、こうした危機と社会的分断という大規模な変動にさらされた諸社会が、その後いかに日常生活の再建を果たすのかに注目した。特に、そこにおいて人々はいかなる戦略的な役割を担うのかが、研究を開始した問題関心の核である。

本研究は、特に常態に復帰する過程としての、社会のレジリエンスの側面に注目することとした。その背景には、危機的な状況に置かれた人間に関する研究は比較的蓄積がある一方、社会的過程として紛争後の社会が日常生活をいかに再建しているのかについては、民族誌的な観察に基づく研究が不十分であると考えたからである。この点は、オセアニアが、他の地域と比較して独立移行期の紛争が比較的泥沼化することなく、その後起きた紛争においても復興が比較的スムーズとされることがあり、差異の背後に文化的要因を求められることもある。別言すれば、多文化共生社会の潜在的可能性のある場所としてオセアニアは認識されることもあったといえる。

## 2. 研究の目的

本研究は、ポスト紛争期のレジリエンスの特徴を分析することを目的とした。中心的事例はオセアニアの島嶼部におき、紛争後の諸社会において少数民族と主流社会がいかに紛争後の遺恨を収め、日常生活を再建・維持しているのかについて解明することをめざした。これは移民研究の蓄積があつく、海でつながれたネットワーク型の国家のかたちが思想的源泉にされるオセアニア地域研究の視点からレジリエンスの特質の析出を目指すものであった。

そのためにまず、ポスト紛争期の国家における少数民族がいかなる状況に置かれているのか、民族誌的に記述・分析することを出発点とした。そして彼らが、どのような社会関係資本を活用して、いかに軋轢を生み出すことがないような日常生活を維持しているのか特徴を析出し、少数民族それぞれの戦略の違いの比較を行った。そのなかでも異民族間の通婚をはじめとする文化を横断する信頼関係・人間関係の蓄積を、在地の論理の活用として積極的に研究対象とした。

またこうした国内的な要因だけではなく、少数民族が彼らに備わっている移民ネットワークを活用して、また別様のレジリエンスを図っている可能性についても分析を目指した。これは、一見小規模で政治的資源が乏しいと思われる少数民族が、移民ネットワークを介して紛争後社会の回復期において国際的な場から影響力を行使する事例を念頭に置いていた。そうした NGO に代表されるネットワークの情報を分析することで、オセアニアのレジリエンスについてより複合的な視点から検討することを目指した。

## 3. 研究の方法

紛争後社会におけるリスクへの対処と社会的脆弱性の克服に関して、各種のメディア情報や先行研究の収集・整理を通じて、議論の枠組を構築した。現地調査としては、少数民族に対するフィールド調査を通じた情報収集を重視した。少数民族に関する情報は上述する媒体から集約するには限度があり、彼らのレジリエンス戦略を分析するためには、民族誌的な詳細な観察と関係の構築が必要であると考えたからである。特に、クーデタが続くフィジーのポスト紛争期における彼らの状況は、総人口の約9割を占める対立する二大民族集団(先住系とインド系)に隠れて報告が少ないため、まずは基本情報の整備としての意義があった。

具体的なフィールド調査の候補地としては、1) フィジーにおける少数民族の生活圏、2) 彼らの母国、3) 彼らのフィジーからの移民先、の三地点とした。そして文献資料調査として、関連する植民地時代からの史資料の所蔵されている植民地宗主国及び域内大国を想定した。そして研究分担者が個別の民族集団を記述・分析して、お互いに情報交換をはかるなかで太平洋地域の少数民族のポスト紛争期のレジリエンスの様態についてアプローチした。

## 4. 研究成果

研究代表者と分担者の合計4名が連携することで、フィジーを中心とするオセアニアの少数民族について包括的な調査を行うことが出来た。ポリネシア系、ミクロネシア系、メラネシア系、ヨーロッパ系と民族的な出自と移動経験の点において歴史を異にする少数民族集団に対して、紛争後のレジリエンスという視点から分析することで、彼らの戦略上の共通性と差異をある程度浮かび上がらせることが出来た。特に移民の歴史的経緯、定着の過程、先住民との通婚の度合いなどは比較分析に際して有意な論点であると研究メンバーのあいだで確認することが出来た。たとえば、混血の度合いも高く、定住後も先住系の居住地と比較的近接して生活している少数民族においては、習得した先住系の文化的なイデオロムやネットワークを通じて、半ばフィジーの先住民としてのアイデンティティを提示する文脈があることを解き明かした。具体的には、基本

的に父系出自を通じて民族的アイデンティティを決める傾向のある彼ら少数民族が、母方の親族関係（ヴァス）を強調してフィジーに半ば土着化した側の出自を強調する戦略である。少数民族の比較をすると興味深いのは、こうした戦略を採用する少数民族とそうでない民族がいること、また採用しない集団においても何らかの形で先住社会の親和性を提示する言説的な特徴が見られることである。

以上の点は、これまで研究メンバーが個別に蓄積してきたフィールド調査に基づく情報や、先行研究及びメディア資料などを積極的に整理・共有することを通じて示した点である。本研究ではより詳細な民族誌的なデータによる分析を行う予定であった。ただし研究期間のほとんどを新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴う、国際的な移動の制限の影響を受け、初年度以外は十全な民族誌的調査は敢行することが出来なかった。したがって最新の民族誌的な調査による少数民族自身のレジリエンス戦略については、想定していた成果よりフィールド調査に基づく一時的な情報の厚みに欠ける嫌いがあることは否めない。そうした今後のさらなるフィールド調査によって補足したい点ではある。

関連する研究研究は、以下の形でまとめた。口頭発表としては、科研のメンバーで開催した研究会のほか、分担者が代表をしている別の共同研究（「オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究」）と連携して研究発表を行ってもある。こうした研究会を通じて得られたコメントは、論文や著作のなかで適宜反映されている。

著書や論文としては、編著『記憶と歴史の人類学（仮題）』を年度内に刊行予定である。本研究メンバーの3名が寄稿しており、移動と定着という視点から少数民族の実践に関する比較分析と、歴史記述という視点からの理論的考察を寄せている。それ以外にも、フィジーにおける紛争の歴史の中に少数民族をどう位置づけるかという論考を、歴史に関する論集の中に寄稿した（2023年の5月末に刊行された編著『太平洋海域世界～20世紀』）。上記のほか、分担者が本研究課題を遂行する過程で集められた個別の少数民族に関する民族誌的なデータを一部で使い、記憶、歴史、共生などを分析の切り口として本プロジェクトに関わる著作、論文やエッセイを複数公表している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小林誠	4. 巻 54
2. 論文標題 フィジーのなかのツバル(3) 想起される歴史とされない歴史	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 会報 ツバル	6. 最初と最後の頁 4, 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 風間計博	4. 巻 38
2. 論文標題 共生を問い直す 「民族」による分断と「饗宴」について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 総人・人環フォーラム	6. 最初と最後の頁 6, 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 風間計博	4. 巻 1
2. 論文標題 真実と虚偽の間に措定された「史実性」の追究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 民博通信online	6. 最初と最後の頁 4, 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 渡辺文	4. 巻 -
2. 論文標題 モノと芸術 人はなぜ美しさを感じるのか?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 松村圭一郎・中川理・石井美保編『文化人類学の思考法』世界思想社	6. 最初と最後の頁 72, 83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林誠	4. 巻 52
2. 論文標題 フィジーのなかのツバル(1) キオア島の現在	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 会報 ツバル	6. 最初と最後の頁 2,4
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林誠	4. 巻 53
2. 論文標題 フィジーのなかのツバル(2) キオア島を購入する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 会報 ツバル	6. 最初と最後の頁 2,4
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林誠	4. 巻 -
2. 論文標題 ツバルの滑走路建設と現地社会への影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 石森大知・丹羽典生(編)『太平洋諸島の歴史を知るための60章 日本とのかかわり』明石書店	6. 最初と最後の頁 164,168
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林誠	4. 巻 -
2. 論文標題 『沈む島』への援助 ツバルにおける気候変動対策	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 石森大知・丹羽典生(編)『太平洋諸島の歴史を知るための60章 日本とのかかわり』明石書店	6. 最初と最後の頁 259,263
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Makoto Kobayashi
2. 発表標題 Replanting, Responding, and Remembering: Shaping landscape on Kioa Island in Fiji
3. 学会等名 Anthropology and Geography: Dialogues Past, Present and Future. Royal Anthropological Institute. online conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小林誠
2. 発表標題 「約束の地」での不安 フィジー・キオア島の土地をめぐる歴史と現在
3. 学会等名 科学研究費補助金「紛争後社会のレジリエンス：オセアニア少数民族の社会関係資本と移民ネットワーク分析」（代表者：丹羽典生）研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丹羽典生
2. 発表標題 <複数のアイデンティティを潜在的に抱えた集合体>の民族誌 フィジー・レヴカの少数民族の事例から考える
3. 学会等名 科学研究費補助金「紛争後社会のレジリエンス：オセアニア少数民族の社会関係資本と移民ネットワーク分析」（代表者：丹羽典生）研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丹羽典生
2. 発表標題 紛争後におけるフィジー少数民族の歴史実践の比較分析
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丹羽典生
2. 発表標題 オセアニアの少数民族から紛争後社会とレジリエンスを考える 多民族間関係と移民ネットワークを焦点に
3. 学会等名 科学研究費補助金「紛争後社会のレジリエンス：オセアニア少数民族の社会関係資本と移民ネットワーク分析」研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 風間計博、梅崎昌裕	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 304
3. 書名 オセアニアで学ぶ人類学	

1. 著者名 小林誠	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 13
3. 書名 「環境問題 ツバルの気候と社会の変化」風間計博・梅崎昌裕（編）『オセアニアで学ぶ人類学』	

1. 著者名 丹羽典生	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 13
3. 書名 「植民地 ヨーロッパ諸社会による支配と先住民フィジー人の自律」風間計博・梅崎昌裕（編）『オセアニアで学ぶ人類学』	

1. 著者名 渡辺文	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 14
3. 書名 「芸術 オセアニアの芸術と工芸の交差点」風間計博・梅崎昌裕（編）『オセアニアで学ぶ人類学』	

1. 著者名 小林誠	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善	5. 総ページ数 2
3. 書名 「備蓄」国立民族学博物館（編）『世界の食文化百科事典』丸善出版	

1. 著者名 Fumi Watanabe	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Kyoto University Press/ Trans Pacific Press	5. 総ページ数 25
3. 書名 Creating Oceania: Place and Ba of the Festival of Pacific Arts. In Kazama, Kazuhiro, Kajimaru, Gaku, and Coker, Catlin (eds.), An Anthropology of Ba: Place and Performance Co-emerging	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>科学研究費助成事業による研究プロジェクト   基盤研究 (B)  <a href="https://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/19H01399">https://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/19H01399</a></p>
---



6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	風間 計博  (Kazama Kazuhiro)  (70323219)	京都大学・人間・環境学研究科・教授    (14301)	
研究分担者	小林 誠  (Kobayashi Makoto)  (10771826)	東京経済大学・コミュニケーション学部・准教授    (32649)	
研究分担者	渡辺 文  (Watanabe Fumi)  (30714191)	同志社大学・グローバル地域文化学部・助教    (34310)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関